# 地区別防災カルテ(浦和区)

大原中学校区 木崎中学校区 本太中学校区 常盤中学校区 白幡中学校区 岸中学校区 原山中学校区

### 1学区の概況と課題

# さいたま間防災カルテ

### 大原中学校区

用和 URAMA

#### ◆学区の概要

【位置】浦和区の北部に位置し、見沼区・大宮区・中央区と隣接している。

【土地利用】学区内には住宅地が広がっている。

【交通】学区の北部に首都高速埼玉新都 心線、中央部には産業道路、西部 にはJR東北本線が走っている。

#### ◆学区の位置



#### ◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震		関東平野北西縁断層帯地震		東京湾北部地震	
最大震度 6強 (6.1)		6弱	(5.9)	6弱	(5.6)	
最小震度	6弱	(5.9)	6弱	(5.5)	5強	(5.2)
死者	99人	(0.4%)	10人	(O.O%)	2人	(O.O%)
負傷者	224人	(0.8%)	53人	(0.2%)	15人	(O.1%)
避難者	11,832人	(42.2%)	1,354人	(4.8%)	361人	(1.3%)
全壤建物棟数	3,586 棟	(57.1%)	372 棟	(5.9%)	92 棟	(1.5%)
うち焼失棟数	3,230 棟	(51.4%)	333 棟	(5.3%)	88 棟	(1.4%)
半壊建物棟数	1,085 棟	(17.3%)	416 棟	(6.6%)	171 棟	(2.7%)
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	0 棟	〇棟	〇棟	465 棟	〇棟	〇棟
床下浸水建物棟数	〇棟	〇棟	0 棟	69 棟	〇棟	〇棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

#### ◆人口概況 (平成22年国勢調査)

		大原中学校区	全市平均
人	総人口	28,031人	
	O-14歳	4,136人 (15%)	(14%)
	15-64歳	18,712人 (67%)	(67%)
	65歳以上	5,183人 (18%)	(19%)
	人口密度	10,620人/km <sup>*</sup>	5,766人/km²

18% 15%

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、人口密度はやや高い。

# ◆建物概況(平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

		大原中学校区	全市平均
	総建物棟数	6,280棟	
	木造(昭和46年以前)	1,056棟(17%)	(17%)
7=	木造(昭和47-55年)	913棟(15%)	(12%)
建物	木造(昭和56年以後)	2,691棟 (43%)	(45%)
ガル	非木造(昭和46年以前)	51棟 (1%)	(1%)
	非木造(昭和47-55年)	149棟 (2%)	(3%)
	非木造(昭和56年以後)	1,420棟 (23%)	(21%)

23% 17% 2% 15% 【地震】さいたま市直下地震では最大震度6強となっており、地区の約75% が全壊・半壊の被害を受け、地区の約50%にあたる建物は焼失する恐れがある。

【水害】他の地域と比べ、相対的には浸水被害の危険性は低い。

#### ◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称		
避難場所	大原中学校、上木崎小学校、針ヶ谷小学校、県立浦和西高等学校、上 木崎公民館、針ヶ谷公民館		
一時•広域避難場所			
市•区役所等窓口	与野駅市民の窓口		
消防署•出張所			
警察署•交番	領家交番、上木崎交番、与野駅前交番		
救急病院			
心急給水場所	大原中学校、上木崎小学校、北浦和浄水場		

#### ◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

【耐震化】多くの建物被害が想定されているため、<u>耐震化率の向上が必要</u>。 【火災】火災焼失の危険性が高い地区となっており、避難や初期消火体制等で の自主防災組織等、共助の活性化が必要。

【避難者】避難者の割合が高いため 、<mark>避難施設の充実及び運営体制の確保が</mark> <u>必要</u>。

建物の割合は全市平均とほぼ同等である。

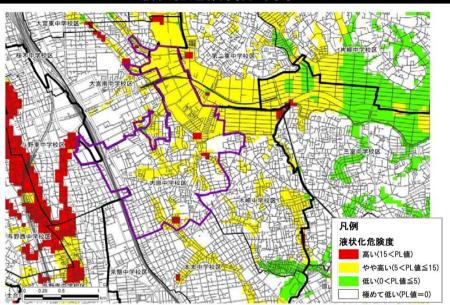
#### さいたま市防災カルテ ②さいたま市直下地震の想定

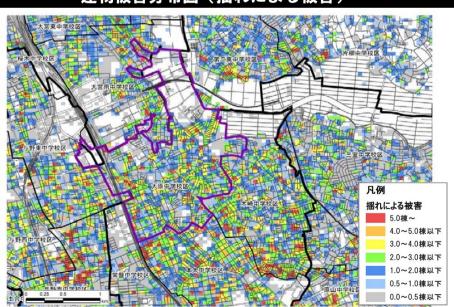
# 大原中学校区

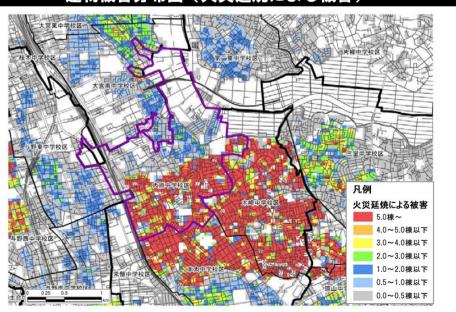




### 液状化危険度分布図







07-01-2

# ③防災マップ

# さいた食品防災カルテ

# 大原中学校区



